

## 新疆ウイグル自治区におけるヤツガシラの繁殖習性

許設科・許山・劉志霄  
新疆大学生物系  
訳 福井和二

摘要；1993年以来、ヤツガシラの繁殖習性を観察してきた。ヤツガシラは新疆维吾尔自治区では夏鳥で、多くはニレの樹洞に営巣し、5月の初めに産卵、1巣卵数5~7卵、抱卵16~18日、育雛は24~26日、主に昆虫食である。

ヤツガシラ(*Upupa epops*)は旧大陸に広く分布し、ヤツガシラ科1属1種で全国に知られている。ヤツガシラは新疆维吾尔自治区では夏鳥である。毎年4月上旬に渡ってきて、9月中旬には去っていく。広く新疆南北の農業牧畜地域に生息し、田園、その附属林、村落付近の荒地などの地上で採食している。ヤツガシラに関する研究資料はいくつかの報告があり、新疆におけるヤツガシラに関する文献もある。1993年以来、われわれは烏魯木齊市近郊(海拔850~950m)においてヤツガシラの繁殖習性を観察し、多くの研究資料を得たので、以下の通り報告する。

### 1. ペアリングと営巣

1.1 ペアリング ヤツガシラは毎年4月下旬渡って来て、栄養補給と同時にペアリングの時期に入る。雌雄の体色は同一であるが、雄はやや暗色で光沢がある。体型もやや大きく活動的で、常に樹木、屋根棟、塀の上あるいは電柱にとまって低い声で“hu-bo-bo”と鳴き、そのとき頭を少し上下しながら冠羽を立てたり伏せたりする。

雌の体型は雄に比べ小さく、羽色もやや淡く、あまり鳴かず、求愛行動もはっきりとはしていない。両者は常に屋敷林や屋根棟で戯れる様に飛び交い、耕地や草地、畜舎の周辺で採食している。何かに驚いて飛び去っても、周囲が落ち着くと雌雄が“ji-ji-ji”と鳴き合いながら近寄ってくる。

1.2 営巣期 ヤツガシラはへんぴな荒野から、食物の豊かな田園地区、林縁、農家の建物、崖など自然にできた樹洞、土洞、屋根棟の下など様々なところへ巣を作るが、通常はハルニレの大木の樹洞が使われる。巣の口径は6.4~8.2cm、深さ25~53cm、底径18~27cm(表1)。巣の口は西北あるいは西南に向いて物

表1 ヤツガシラの巣

No	地面からの高さ	巣の口径	巣の深さ	巣の底径	巣材	環境
	m	cm	cm	cm		
1	1.6	6.5	25	19	樹皮の細片	防風林
2	4.5	6.4	53	18	樹皮の細片	屋敷林
3	3.4	8.2	28	27	藁、羽毛	民家

陰になっているものが多く、巣材は樹皮の細片、藁屑、羽毛などである。

## 2. 産卵と抱卵

2.1 産卵期 最も早い産卵は5月4日で、毎日1卵、5~7卵を産むが、雨天は産まない。卵は楕円形で多くは灰緑色だが、乳白色のものもある。平均卵重4.09g、卵径22.8×16.4mm(表2)。

2.2 抱卵期 抱卵はもっぱら雌が担当する。抱卵期の雌は巣に対して執着が強く、巣を離れることが非常に少ない。4回の全日観察(表3)では雌の平均抱卵時間は13時間51分/日で、巣を離れた時間は1時間07分、1日平均6回巣を離れ、最長27分、最短4分であった。抱卵している時間は最長2時間55分、最短1時間35分である。雄は抱卵することなく、この間雌に対して給餌を続ける。巣の近くでねぐらをとった雄は6時30分頃3~4回鳴き声を挙げると、畑や、畜舎の周辺で餌をとるため、飛び出していゑく。毎日60~80回雌へ給餌し、1日2回のピークがある。その1つは8時から10時の間、第2のピークは13時から14時の間であった。風雨の強い日は雌に対する給餌行動は明らかに減少した。日暮れに行動は停止するが、雄は巣に入らず、近くの枝でねぐらをとる。1994年1巣7卵の観察によると5月20日第1卵が孵化し、26日までに7卵すべてが孵化した。抱卵期間は16~18日、負荷率は100%であった。

表2 ヤツガシラの卵

Nb	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
長径(mm)	23	23	23	23	22	23	22	23	22	24	22.8
短径(mm)	17	16	17	17	16	17	16	17	16	17	16.4
重量(g)	4.2	4.0	3.8	4.1	4.0	4.3	3.8	4.2	4.0	4.5	4.09

表3 ヤツガシラ雌の抱卵時間配分

	1日抱卵時間	1日離巢時間	1日離巢回数	毎回抱卵時間		毎回離巢時間	
				最長	最短	最長	最短
5月10日	13:54'	1:06'	6	2:46'	1:34'	31'	4'
5月12日	13:50'	1:01'	7	2:42'	1:06'	18'	5'
5月14日	13:45'	1:11'	5	3:26'	2:18'	35'	5'
5月16日	13:53'	1:11'	6	2:45'	1:20'	23'	4'

## 3. 育雛と雛鳥の発育

3.1 育雛期 孵化したばかりのひ弱な雛を雌は約10日ほど巣の中で抱いたまま、ほとんど給餌に参加しない。餌を運ぶのは雄の役目で、餌をくわえて巣に戻った雄は、餌を雌に渡し、雌がその餌を雛たちに給餌する。もし雌が巣にいない場合は直接雄が雛に給餌する。孵化後8日ころから次第に雌が巣にいる時間がすうなくなり、給餌に参加する時間が増えてくる(表4)。毎日夜明け6時30分ころ、

雛の“嘶、嘶、嘶”という鳴き声を聞くとすぐに給餌活動を開始し、夜22時30分になって給餌は停止した。雛の発育成長にしたがって、親鳥の給餌は次第に増加し、1日3回の給餌ピークが見られるようになる。3日齢の幼雛では195回、平均27.8回/1羽の給餌が行われ、給餌行動のピークは7～8時、13～14時、19～20時で、6日齢の場合は、284回、40.6回/1羽、ピークは9～10時、14～15時、17～18時、12日齢では417回、59.6回/1羽、ピークは7～8時、16～17時、19～20時であった。育雛期には親鳥の警戒心が一層強くなり、餌を運んでくると先ず巣の近くの樹の枝に止まって周囲を観察し、周囲の安全を確かめて初めて巣へ入り雛へ給餌する。終わるとすぐ飛び出して再び近くの枝に止まり、二声三声鳴いた後餌を採りに飛び立ってゆく。親鳥の採餌活動範囲は周囲の自然環境における餌の量によるが、半径5～150m以内で採餌行動が行われていた。

表4 ヤツガシラの育雛行動 (給餌回数/hr)

時間	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12	12-13	13-14	14-15	15-16	16-17	17-18	18-19	19-20	20-21	21-22	毎日給餌回数	受給回数/羽
3日齢	8	15	11	8	7	9	8	17	12	12	9	13	16	21	19	6	195	27.8
6日齢	10	13	13	15	14	14	10	19	27	25	22	31	22	23	20	4	284	40.6
12日齢	9	35	26	28	23	20	19	12	18	39	42	35	29	40	30	12	417	59.6

3.2 雛の発育 1日齢の雛は全体が裸で、皮膚は淡紅色、頭頂中央部にわずか細い灰色の絨毛が生えており、眼は閉じられており、まぶたは灰黒色、嘴のものはオレンジ色、先端は灰白色、翼と脚は軟弱、体重7.3g、体長、61mm、嘴峰6mm。雛の発育、成長は非常に早い。5日齢の雛は体重27.5g、体の表面に青色の羽毛が生え、風切羽根の羽鞘が生え始め、物音がすると首を伸ばして口を開け“嘶、嘶、嘶”と鳴き叫ぶ。18日齢に至ると長い羽毛が生え、冠羽が見られ、風切羽と尾羽は羽鞘から羽が広がり、嘴と脚は灰黒色となる。平均体重60.9g、体長118.8mm、翼長60.8mm、ふ蹠長21.0mm、嘴峰26.2mm、尾長31.5mm。

表5 ヤツガシラの18日齢と25日齢の体位測定

	No	体重g	体長mm	翼長mm	ふ蹠長mm	嘴峰長mm	尾長mm
18日齢	1	72	130	65	20	29	42
	2	66.5	120	63	21	27	32
	3	54	115	60	22	25	27
	4	51	110	55	21	24	25
	平均	60.9	118.8	60.8	21.0	26.2	31.5
25日齢	1	73	225	136	23	26	90
	2	67	210	130	21	34	85
	3	64	213	127	22	33	82
	4	60	200	120	20	32	80
	平均	61	212.5	128.3	21.5	33.3	84.3

25日齢では体羽毛がさらに豊かになる，風切羽，尾羽，雨覆，冠羽などの色彩，斑紋，外形等が親鳥とよく似てくる．平均体重61.0g，体長212.5mm，翼長128.3mm，ふ蹠21.5mm，嘴峰33.3mm，尾長84.3mm(表5)．

#### 4. 巣立ちと食性

4.1 巣立ち 雛は25～27日齢で巣立ちを開始する．巣立ちの順番は体力に関係があり，早く孵化して体力の強いものから巣立ちをしていく．巣立ちは通常晴れた日の午前10時ころ始まる．親鳥は7～9時ころから20回ほど給餌を行った後餌をくわえてきて巣の付近の枝に止まり，鳴きながら絶えず頭を振り，食べ物をもって雛の巣立ちを誘う．雛は巣の出口まで這い出して，親鳥の鳴き声に誘われて飛び出し，やや離れた樹の枝に誘導される．一度巣立ちした雛は再び巣へは帰らず，枝に止まって首を伸ばしたり，翼をあげたり広げたり，羽づくろい，羽ばたきなどの行動をする．2日位ですべての雛が巣立ちし，親鳥の誘導で短距離の飛行練習や，付近の地面，土手，堆肥の上などで採食を始める．この時も親鳥はたびたび給餌をするが，次第に給餌回数が少なくなる．4～5日程で親鳥に伴われた雛は営倉場所から離れていく．

4.2 食性 ヤツガシラの繁殖期の主要な食物は昆虫である．育雛期間に親鳥は付近の耕地，樹林，畜舎，堆肥の上等で採食をする．雛の給餌に運ばれる昆虫は，ハエの蛆，コメツキムシの幼虫，バッタ類，ケラ，ミミズであった．2羽の23日齢の雛のそのうと筋胃の剖検によると90%以上が昆虫の幼虫で，そのうち鱗翅目の幼虫が最も多かった．雛の成長に従ってバッタやコガネムシのやや大きい成虫が食物として見られるようになる．ヤツガシラは農林害虫を食べる主要な益鳥と見ることができ，農林，果樹蔬菜の害虫を抑止する重要な作用があるので保護をしなければならない．

#### 訳注

- \* 19～20時 ウルムチ 烏魯木齊市は東経88度付近にあり，中国では全国北京時間に統一されておりますから，この時期では，時差の関係で鳥が行動することが出来るほど遅くまで明るいでしょう．